



しっかりPR、さらなる高みへ

高邁な理想を掲げ、共にがんばりましょう！

茨城県行政書士会

会長 國井 豊

夏の猛暑を忘れ去るぐらい、朝夕肌寒さを感じる季節となりました。わが国の誇る四季の移り変わりによる自然との調和を大切に、つねに目標を意識しながら、総括と前進を繰り返すことで、しっかり成果を得てまいりたいと思います。会員の皆さんの力強いご理解とご協力を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。

10月の恒例行事である制度広報月間も各支部との連携のもと、会員の皆さんの絶大なご支援ご協力により、無事終えることができました。この場をお借りし、感謝御礼申し上げます。県内59箇所の相談会場と併せ、市民相談センターも機能し、県民の皆さんの期待と信頼に十分応えることができたと思います。長年コツコツと積み重ねてきた、47都道府県行政書士会による全国一斉の展開は、着実に認知度向上へと波及し、一人ひとりの会員がそれぞれの地域社会において、活動しやすい環境へと繋がっているような感があります。

一方で、時代の変遷と共に、社会における土業のあり方、市民の期待やそのイメージは大きく様変わりしております。組織としての社会への貢献はもとより、個々の行政書士は、サービス業的色彩を強く求められるようになりました。法の目的や制度理念は不変にも関わらず、昔日では想像できないような変わりようです。

ところで、経営の心構えとして、「依頼者の身になって、やさしく寄り添う」とのフレーズがあります。とても耳障りの良いキャッチコピーですが、はたしてどれだけ依頼者のニーズを把握しているのでしょうか。企業はつねにマーケティングを怠ることなく顧客満足を探求します。行政書士制度は社会正義、社会制度であり、一般的なサービス業とは趣が違ふとの論陣を張ることもできます。しかし、生業としての成り立ちには、的確な現状認識のもと、営利を目的とする企業のような取り組みをすすめることが必要で

す。当然にして、制度創設理念や法の趣旨を逸脱し、職業倫理を損なうようなことも厳に慎まなければなりません。何事もバランスが大切です。絶妙なバランスの上に立った最適な制度PRは何か、つねに考えさせられ求めてまいりました。

一方、年間を通して、無料相談会開催の体制は整いつつあります。地域によって差異はありますが、かなりの定着感もみられます。これらを前提に、広報月間のあり方を再考したとき、攻めの制度PRとして、その取り組み強化を図る必要性を痛感します。水戸支部で試みているイオンモールや京成百貨店での相談会は、これまでの常識を覆す、いわばイベントへの出店のような感覚です。ユキマサ君が踊り、風船が舞い、会員がハッピーを着てPRグッズを配布する光景は、先述したように、制度の移り変わりそのものといえます。先人が目の当りにしたら、きっと驚くでしょう。きわめて感慨深いものがあります。

日頃からの着実な相談体制の整備、広報月間におけるイベント的な展開と、これまでのような地道な取り組みの二本立ては、認知から活用そして期待する結果、信頼による口コミ効果、さらなる期待と信頼等々の好循環に繋がるはずです。しっかり総括し、飛躍を求めてまいります。

11月は行政書士試験への協力を実施します。今年で19年目を迎えますが、スタート当初と比較し大幅な受験者数減少がみられます。資格の優位性が薄れたのか、制度に魅力を感じないのか気になるところですが、中心にいる私たちには、有為な制度として次世代へ引き継ぐ責任があります。一人ひとりの行政書士が地域で活躍し、さらに信頼され社会の範となることで、世のため人のためという制度理念を究極的に満足させれば、憧れの生業となるはずで、高邁な理想を求めて、共にがんばりましょう！